

## Z39.50 プロトコルを用いた検索クライアントの開発

江草由佳

本研究はクライアントサーバ間のやり取りを標準化する「情報検索のための通信プロトコル Z39.50」を用い、様々な検索サーバに一元的にアクセスできる検索クライアントを開発した。

Z39.50 は広く開かれた情報サーバを作成することを目標に、情報検索のための検索質問や検索結果、課金や認証について定めた ANSI/NISO 標準検索プロトコルである。Z39.50 を用いた検索システムは、アメリカ議会図書館の Z39.50 管理機構に登録されているだけでも 100 を越えており、増加の一途をたどっている。

情報検索システムはこれまで独自に構築されてきたため、相互に利用できず、情報検索システム固有のクライアントからしかアクセスできなかった。そのため個々の検索クライアントを利用するにはそれぞれのクライアントの使い方に習熟する必要があった。これに対し、検索クライアントと検索サーバ間のやり取りを標準化した Z39.50 検索クライアントでは、慣れ親しんだ一つの検索クライアントで複数の検索サーバに接続でき、固有のインタフェースやシステムの違いを意識せずに検索できる。

本研究で開発した検索クライアントは Index Data 社が開発した YAZ という Z39.50 に基づいた検索システムを作るためのツールキットを基にプロトコルエンジンを開発し、Tcl/Tk を用いて GUI 部分を開発した。本システムは接続ウィンドウと検索ウィンドウで構成され、検索クライアントを起動すると接続ウィンドウが立ち上がり、接続サーバを選択できる。本システムに登録された接続できる検索サーバは 15 あり、Wisconsin-madison 大学の大学図書館の OPAC の検索サーバ、ベル研究所で開発された検索サーバ、OCLC の First Search などがある。検索サーバに接続すると検索ウィンドウが起動し、検索式を入力したり、検索結果を表示できる。著者や書名などのアクセスポイントを指定した検索や、履歴を利用した検索も可能である。また、EUC コードを使った日本語入力と日本語表示ができ、共同研究を行なった真野の JAPAN/MARC を対象とした日本語化検索サーバにアクセスし検索できる。

本システムの検索クライアントにより、世界各地の Z39.50 検索サーバや、日本語の Z39.50 検索サーバに接続できるようになった。

( 指導教官 石塚英弘 )